

・・・特定行為研修修了看護師の役割と活動について・・・

2025年の日本は超高齢化社会になり、病院で治療を受ける人よりも在宅で医療を受ける人が多くなることが予想され、今よりもっと在宅医療をすすめていく必要があります。そこで2015年10月に医学的判断ができ、患者にタイムリーに対応できる看護師を育成する研修が制度化されました。



活動の場は？

活動の場は病院、在宅問いません。医師が往診して患者を直接診なくても、特定看護師が、「手順書」によって一定の診療の補助（脱水時の点滴など）を行うことができます。また、病院などにおいても医師が四六時中患者に直接関わることができない場合もあるため、医学的判断ができる特定看護師が患者にタイムリーに対応できます。それぞれの特性に応じた活動を特定行為研修修了看護師自らも考え、地域に合ったスタイルで活動するのが良いかもしれません。



特定行為研修制度の概要は？

簡単に言うと、「手順書」を基に「医師の判断を待たずに特定行為を活用して、患者に対応する看護師を育成する制度」になります。



特定行為ってどんな行為ができるの？

呼吸器関連、循環器関連、感染関連、糖尿病、創傷管理関連など38行為21区分の行為となります。詳しくは「厚生労働省→特定行為研修制度」で検索して下さい。大牟田天領病院では壊死組織の除去（デブリードマン）、陰圧閉鎖療法、ドレーン管理、脱水の補正の特定行為が出来ます。



どこで研修を受けることができる？研修の内容は？

認定看護師を対象とした研修施設と認定看護師以外の看護師を対象としている施設があります。29都道府県で54機関が行っています。九州は福岡県、佐賀県、大分県、鹿児島県に研修機関があります。（1017年4月現在）研修は共通科目（臨床推論や臨床薬理学、臨床病態など）と区別科目（各認定看護師の特化分野）に分かれており、合計408時間のカリキュラムとなっています。科目毎に筆記試験や客観的臨床能力試験があります。また実習もあります。



現在の活動は？

院内では皮膚科医を中心に主治医と協働しながら創傷管理（外科的デブリードマンや陰圧閉鎖療法）を中心に行っています。11月から循環器医師が赴任されましたので下肢の血流評価を行いながら足病変のケアにも取り組んでいます。院外活動では、大牟田創傷管理研究会を創設し地域に根差した研修会を行っています。また他施設での褥瘡回診や在宅医との同行訪問等も行っています。



今後の抱負は？

特定行為というその「行為」（施行技術）が目されること多いのですが、特定行為研修の中では「特定行為が出来る」よりも「特定行為を安全に実施出来るか否かの“アセスメント”が重要」と学びました。当院はケアミックス病院であり地域包括ケアシステムを有効に活用した支援ができる病院です。特定行為研修で培った内容を院内の人材育成や地域施設や在宅に向いて、色々な方と協働して住み慣れた場所で安心して療養できる環境を提供したいと思っています。



特定行為研修修了者（H29.4）（創傷管理関連）皮膚・排泄ケア認定看護師 吉村 寿郎

編集後記

今年も瞬間に過ぎていき、あっという間に今年最後の月となりました。綺麗な飾りつけでにぎあうクリスマスが過ぎればよいよお正月です。みなさまにとってはどのような1年だったでしょうか。年末に向けて職場も家庭も大忙しの毎日ですが、風邪に注意してあとひと踏ん張り！お正月はこたつでみかんを食べながらゆったりと迎えるのが私の楽しみです。みなさまどうぞ良いお年をお迎え下さい。

交通アクセス

- JR鹿児島本線大牟田駅下車・・・徒歩20分
○西鉄天神大牟田線大牟田駅下車・・・徒歩20分
○九州自動車道南関ICより自動車で・・・25分
○西鉄バス大牟田駅前バス停乗車
天領校前下車（行先番号2番）・・・下車徒歩3分
天領町1丁目下車（行先番号4番）・・・下車徒歩0分



診療受付時間

月曜～金曜日／ 8：30～11：30（診療開始 8：45～）
午後診療時間についてはお問い合わせ下さい
土曜日／ 8：30～11：00（診療開始 8：45～）

休診日

日曜日、祝祭日、年末年始（12／30～1／3）

面会時間

平日・土日祝祭日 11時～20時まで



当院に対してご希望やご意見がございましたら職員にお気軽にお申し付けください。また、ご意見箱も是非ご利用ください。

一般社団法人 福岡県社会保険医療協会
社会保険 大牟田天領病院

〒836-8566 福岡県大牟田市天領町1丁目100番地
TEL 0944-54-8482 FAX 0944-52-2351
電子メール：somu@omutatenryo-hp.jp ホームページ：http://omutatenryo-hp.jp/

天領医療連携だより

Ohmuta Tenryo Hospital 2017.12



■ 本院の目標

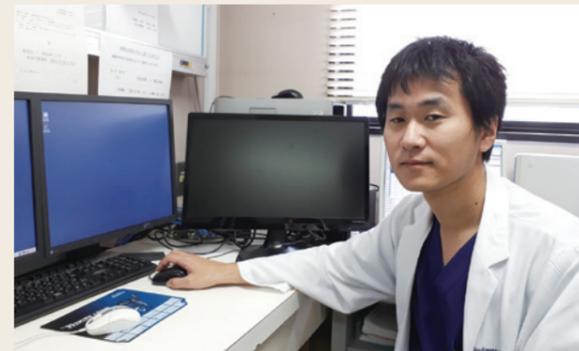
- 一、本院の五つの理念の確実な実践
二、患者様の尊厳の厳守
三、地域と一体になった医療システムの確立

■ 医療理念

- 一、患者中心の医療
二、医療の質の向上
三、地域社会にあった手づくりの医療
四、安心と信頼を持たれる病院づくり
五、経営の安定と職員満足度の向上

《循環器科常勤医師着任のお知らせ》

平成28年3月より不在でありました循環器科の常勤医師が平成29年11月より着任いたしました。地域医療機関の皆様におきましては、常勤医師不在の際、患者様の受け入れ等を速やかに対応して頂きましたことを心より厚くお礼申し上げます。これまで、胸部疾患等につきましては循環器疾患の対応ができなかったために非常にご迷惑をお掛けしておりましたが、今後は入院、検査（予定の心臓カテーテル検査）に対応できるようになり、外来につきましてもこれまで隔日でありましたが、月曜日から金曜日までは毎日行っております。これまでと同様に、外来・入院共に対応して参ります。これからも皆様と共に地域医療に貢献し、地域のニーズに応じた医療連携を目指したいと考えていますのでどうぞ宜しくお願い致します。



地域の皆様のために最善をつくします。超一流の診療を本院と大学病院と連携しながら皆様に提供いたします。今後ともよろしくお願い致します。

循環器科 医長 田畑 範明（たばたのりあき）

- 《資格》 ・日本内科学会認定医
・日本循環器学会専門医
・日本心血管インターベンション治療学会専門医



《心臓リハビリテーションも再稼働》

循環器科の常勤医師が着任され、それに伴い心臓リハビリテーションも再稼働することとなりました。理学療法士2名（心臓リハビリ指導士1名）、作業療法士1名の計3名で運営しております。心臓病を持病とする患者様に対しては薬物療法、食事療法、運動療法、生活指導などが有効とされておりますが、心臓リハビリテーションでは主に運動療法と生活指導を行っております。運動はたくさんすれば良いというわけではなく、心臓の機能に合わせて適切な量と強度で行う必要があります。適切な運動を行い、それを自宅でも継続して行っていただくことで、地域の皆様が健康で生き生きと過ごせるように支援していきます。今後ともよろしくお願い致します。
リハビリテーション科副技師長 西原 裕明



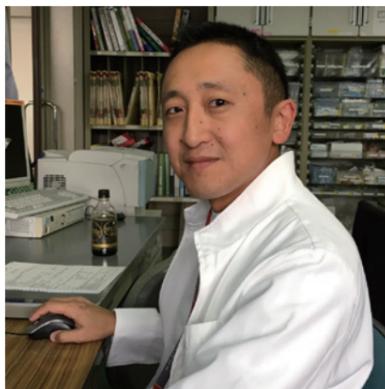
消化器外科 新任医師のご紹介

■ **橋本先生を知る** 10月1日より外科赴任いたしました、橋本大輔です。熊本市出身で2000年に熊本大学医学部を卒業し、**現在41歳**です。2011年から1年間ヨーロッパのフィンランドに留学した後、前任地の熊本大学医学部付属病院消化器外科に5年半勤務しました。大牟田天領病院には初めて勤務いたします。

■ **得意分野** これまで膵臓がんや膵炎などの膵臓疾患と、胆道がんや胆石などの胆道疾患の診療と研究に励んでまいりました。昨年、これらの疾患の外科手術を専門に行う**日本肝胆膵外科学会高度技能専門医に認定**していただきました。当院では消化器だけでなく外科疾患全体を担当いたしますが、特に膵臓、胆道疾患を患われるかたにはお力になれると思います。

■ **秘めた想い** 既に赴任から2ヶ月が経とうとしていますが、当院は勤務する医師からみてアットホームでチームワークに徹した素晴らしい病院だと感じています。このような環境で自分が正しいと信じる医療に励むことが、今の私の喜びです。興梠院長はじめ皆さんから心からの応援をいただいています。そのような言葉の一つ一つが私の支えです。

■ **地域の皆様へ** 今回の異動ではじめて大牟田市にやってきましたが、とてもよい街だと感じています。皆様のお力になれるよう励んでまいりますので、これからよろしくお願いいたします。



消化器外科 副部長
橋本 大輔 (はしもと だいすけ)

～Team 消化器外科～



右から ◆橋本大輔先生
◆消化器外科部長
松村 富二夫
◆病院長
興梠 博次

■ **橋本先生へのエール** 外科医が全国的に少ない状況にもかかわらず、国際的に活躍をされている橋本先生に診療支援をいただき本当に有難うございます。

肝臓・胆嚢・膵臓手術の高度技能専門医として大きな力を発揮していただき、有明地区の皆様にも多大な貢献をお願いします。ともに頑張りましょう。

■ **今後の展望、想い** 私たち外科チームは、他の診療科と協力して、疾患の早期発見、早期治療に努め、術創を小さくし（腹腔鏡手術）、入院期間を短くし、術後の機能障害を最小にして皆様の健康寿命を延長する努力を致します。

■ **地域の皆様へ** 私たち外科チームは、主に消化器外科を担当しますが、泌尿器科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科（膵臓、副腎甲状腺等）の腹部の診療で頑張っていきます。胸の疾患（呼吸器内科・外科と心臓・血管）、脳神経・関節・骨格・筋肉（神経内科・脳神経外科・整形外科）、皮膚科、小児科、放射線科、リハビリの診療も充実しています。職員一同連携して患者中心の医療を展開します。患者の尊厳を守り、地域と一体となった医療システムを構築し、皆様の医療を守ります。

◎第9回社会保険大牟田天領病院地域医療連携懇親会開催

地域医療連携室 梅田真嗣

10月25日（水）にホテルニューガイア オームタガーデンで、第9回大牟田天領病院地域医療連携懇親会を開催しました。有明地区の医療・介護機関から220名の参加がありました。興梠病院長の開会に始まり、来賓として大牟田医師会長の杉健三先生と荒尾市医師会長の藤瀬隆司先生の挨拶、岡本医局長による各科診療科医師紹介、興梠病院長による「呼吸器疾患のトピックス」と題した講演、大牟田医師会副会長の安藤謙治先生の乾杯により歓談となりました。また9題のポスターセッションもあり多職種の方と交流を深める機会となりました。最後は、久保田副院長の閉会の挨拶、荒尾市医師会副会長の伊藤隆康先生の万歳三唱で閉会となりました。今回も多くの出席者から当院に対する期待と助言が寄せられ、それらに応える努力を続けると共に、一層の地域連携を進めて行きます。



◎第1回社会保険大牟田天領病院市民公開講座開催

地域医療連携室 三小田久一

11月5日（日）の大牟田文化会館にて第1回大牟田天領病院市民公開講座が開催されました。記念すべき第1回は興梠院長の挨拶とともに大牟田市のマスコットキャラクターのジャー坊も来場し華やかな開催となりました。講演では当院の呼吸器科及び呼吸器外科にて肺癌の原因、治療、手術など幅広い内容で講演がなされました。また特別講演では熊本大学循環器内科学教授の辻田賢一先生より「心臓疾患の最新医学（治療）」について講演がなされました。辻田先生は以前当院にも応援医師として来て頂いたこともあり、講演では今後も天領病院と協力して有明地区の循環器を支えていきたいとお言葉を頂きました。今回は講演とともに、健康展を同時開催し、「糖尿病・腎臓病」「前立腺癌・頻尿」「乳がん・消化器」「肺機能・呼吸器」「転倒予防」「小児科」「認知症・在宅」の7ブースで相談コーナーを設け会場を盛り上げました。初めての市民公開講座開催でもあり、いろいろと改善すべき問題もありましたが、スタッフ皆様のご協力にて大変盛況に終わることができました。今後も市民に寄り添った病院となるべく会を重ねていきたいと思ひます。



熊本大学循環器内科学教授 辻田賢一先生



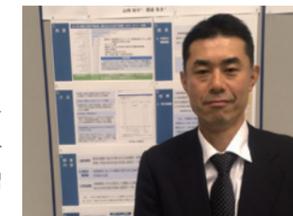
学会発表など

第33回日本義肢装具学会学術大会（東京）

演者：リハビリテーション室技師長 平山 史郎

「脳卒中発症後、初回に処方される短下肢装具の動向について」

2011年に全国の回復期リハビリテーション病棟を有する病院へ脳卒中発症後、初回に処方される短下肢装具についてアンケートを依頼したところ、226の病院より回答が得られました。今回、再びアンケート調査を行い、6年前のデータと比較して継手付の短下肢装具の処方件数が増加してきていることを報告しました。



第51回日本作業療法学会（東京）

ポスター発表：作業療法士 松葉幸典

近年がん患者へのリハビリテーションの必要性は高く、リハビリを通して治療効果をより高め、ADLおよびQOLの改善を図ることが重要であるとされています。当院でも、2016年4月よりがんリハを開始しています。今回、当院においての消化器がん周術期におけるがんリハビリテーション介入前後での術後合併症や在院日数の比較を行い報告しました。



リハビリテーション・ケア合同研究大会（久留米）

ポスター発表：理学療法士 宮本 亮

「身体パラフレニアを呈した症例に対しての理学療法の経験」

脳卒中後まれに、自己の身体が誰か他人の身体の一部のように感じる身体パラフレニア（半側身体失認）という症状を呈することがあります。視覚や体性感覚に焦点を当て自己の身体空間に注意を向ける試みが身体パラフレニア改善の一助となる可能性があるかと報告されています。今回、当院に入院された身体パラフレニアを呈した症例に対して装具療法を用いた理学療法の経験を報告しました。



飯田賞奨励賞受賞

演者：リハビリテーション室技師長 平山 史郎

この度、日本理学療法士協会のご推薦も頂きまして「飯田賞奨励賞」という名誉ある賞を受賞することができました。この飯田賞は、故飯田卯之吉先生が永年に亘り義肢装具の発展のために尽くされた業績を偲んで1981年に日本義肢装具学会に設けられ、義肢・装具・リハビリテーション工学の分野で優れた業績をあげた方を表彰し、本賞と奨励賞を授与するものです。今回の受賞理由は「臨床における下肢装具・体幹装具の研究と開発」によるものでした。私がこのような賞を受賞できたのも当院のリハビリテーションセンター長である渡邊英夫先生（写真 左）と渡邊先生の姿勢やお考えに共感して集う仲間からの指導や助言、それと当院のリハビリテーション科のスタッフからの協力の賜物と心より感謝しています。ちなみに渡邊先生は1983年にさらに名誉がある「飯田賞本賞」を受賞されています。今回の受賞を励みに今後も患者さんの目線に立って装具療法を通してお役に立てることを追求していきたいと思ひます。

